

最終更新日 H24.10.24

改修技術 No. 12302001

性能分野	環境・省エネルギー性能	
大分類	通風性の向上	
中分類	通風経路の確保	
技術の名称	ランマ付建具の採用	
改修技術の概要	<p>【改修工事の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然風の利用は、夏期夜間や中間期において積極的に外気を取り入れ室内から排熱することで、空調に依存しすぎることなく快適な室内温熱環境を実現し、冷房エネルギー消費量を削減できる。 ・外気を効果的に取り入れるためには「入口」と「出口」が必要。外部に面した開口部を方位の異なる2面以上に設けることにより、自然風をより効率的に利用できる。 ・風の「入口」と「出口」を設けても、室内に風の通り道を確保しないと通風は十分に得られない。できるだけ間仕切り壁の少ない開放的な間取りとして、内部建具を工夫する必要がある。 ・ただし、自然風利用のための開口を設けることは、防犯や騒音、耐風など他の面でマイナスになる場合もあるので住宅の安全性・快適性を損なうことのないよう計画する必要がある。 <p>【各工法の特徴】</p> <p>ランマ付建具の採用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランマは、視線を遮りながら空気の流れを確保できる優れた建具形式。 ・引戸に比べ隙間が少ないため音漏れがすくない。 ・最近では、片開きドアとランマを組み合わせた一体化した既製品も販売されている。 ・高い位置に設置するため、風の取り入れ口は地窓など低い位置に設置すると効果的。 <p>引戸の採用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引戸は開放時にも通行等の邪魔にならず、さらに解放寸法を任意に調整できることから、通風に対して有効な建具。 ・アウトセットタイプの既製品や金物が多種類販売されているので、比較的簡便な工事で取付けできる。 ・ドアに比べて気密性が劣るため、音が漏れやすいので注意が必要。 <p>ドアストッパーの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開き戸を設置する場合、ドアストッパーを設置することで、通風ための解放状態を保つことができ、突然の強風にもあおられない。 ・床からのでっぱりが少ないものや、ドアの上部で止めるものなどさまざまなタイプの金物が販売されている。 	  
	<p>< 出典 (上図3点): 「自立循環型住宅への設計ガイドライン」(一財) 建築環境・省エネルギー機構 ></p>	

